



非文字妖怪を文字に記した二十日間の ヨンソン物語

キム・ヨンソン
(漢陽大学校)



ニューズレターの読者の方は「北阿幌洞」というところをよく知らないと思います。ここは海の向こうの韓国ソウルに位置する小さな村です。丘と峠が多くて付けられた名前です。ここ北阿幌洞の丘から出発して六角橋の丘に来た私は、2024年2月1日から21日まで神奈川大学の非文字資料研究センターに訪問研究者として訪日したキム・ヨンソンです。クラウンタクシーに乗って図書館の前に着くと、事務室の成田紅音さんが嬉しそうに迎えてくれました。成田さんについていき、指定の宿で荷物を解いた後、センターに移動しました。幼い頃鉄人28号が好きでしたが、漫画の中のロボット鉄人の腕に刻まれた番号と同じ建物番号が嬉しかったです。私と一緒に訪れたブラジルの学者ダニエルさんに会って挨拶を交わし、みなとみらいキャンパスに移動して指導教員の丸山泰明准教授に会うことができました。晴天の時は富士山が見える研究室で、丸山先生は温かいコーヒーを作ってくれました。

日本の動物の婚姻説話が紹介された本をくださり、インターネットを通じて日本の民俗と説話の一部を聞かせてくださいました。先生の短いが愛情深い指導を受けて私の足は六角橋商店街に向かいました。訪問期間中に会った数人の市民の方々は以下のように語ってくださいました。

場所 1: 六角橋商店街の衣料品店

1) 和服や布団などを売る店の女性3人(40代以上と推定)

「子供の頃、童話ではキツネが変身するという話を見たことがあります。昔話はだいたい覚えていませんね。ムカデ新婦の話は日本にはないようです。『カッパ』という妖怪がいます。『カッパ』の話は思い出します」

場所 2: 六角橋商店街のおもちゃ売り場

2) 店主のおじいさん(80代と推定)

「今、そんな昔話は残っていません。この町で探すのも難しいでしょう」

場所 3: 神奈川大学近くのカレーレストラン

3) 年配の男性客(70代と推定)

「昭和の頃はそういう話が多かったのですが、平成の時代になって産業化が進むにつれ、口伝えの昔話が消えました」



写真1/2: 妖怪物語の名残を共に考えてくれた六角橋商店街の店員さんや市民の方々

発表当日、ブラジル、中国、韓国から来た訪問研究員3人は各自が準備した発表を興味津々で進めました。私もその過程で多くの参加学者の方々の話を聞くことができました。私は発表の始めに映画「耳をすませば」に出

てきた主題歌「カントリーロード」を短く歌いましたが、その時中林センター長の目が丸くなったように感じました。



写真3/4：発表会場のズーム画面／発表会で、丸山泰明先生と一緒に

発表の前日には横浜駅にある SOGO 百貨店で丸山先生と一緒に妖怪展示会を見ることができました。「ゲゲゲの鬼太郎」で有名な水木しげるの展示会でした。日本



の民俗学者の丸山泰明先生の民俗説明を聞きながら観覧できて光栄でした。



写真5/6：静岡出身のユイト君と横浜のタクシー運転手さん

静岡が故郷の神奈川大学の学部生、ユイト君はとても愉快的な学生でした。おかげさまで日本の学部生たちの活力を感じることができました。帰国時には、「孫娘がKポップが好きでハングルの勉強をしている」というタクシーの運転手さんが無事に東京駅まで乗せてくれました。

名前のない歴史を大切に、ここに再び名前を付けることは、民俗学者が行い、民謡学者がすべきことではな



いかと思います。日本の民俗妖怪たちは、いつかまた私を呼ぶと思っています。時がくれば私も回答をしなければならいでしょう。ヨンソン物語はまだ終わっていません。ニュースレターを通じて伝承され、また新しいバージョンのヨンソン物語が続くと期待して文章を閉じます。